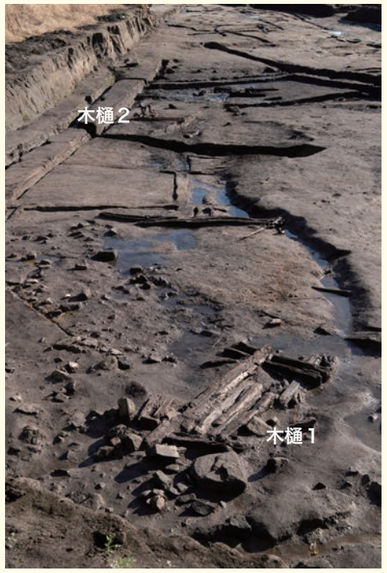
埋文センターの調査から　速報

千代川遺跡第 37 次調査

千代川遺跡は、亀岡市北部、大堰川の右岸に位置する東西 1.4km・南北 1.9km の広大な遺跡で、これまでの調査で縄文時代から中世に至る多数の遺構と遺物が見つかっています。遺跡地内には、白鳳期創建の桑寺廃寺や国府推定地があり、亀岡盆地内でも特に重要な地域であったと推定されます。

調査地は遺跡の北西隅部、丘陵から平地部に入る扇状地の扇頂部付近に位置します。調査では、西から東に向かう流路（溝）を検出しました。扇頂部付近とその下流には、木樋が設置されており、浄水を流す儀礼が行われた導水施設と考えられます。出土した土器などから利用された時期は、おおむね古墳時代前半期と思われます。遺跡の近くには直径 30ｍの葺石と埴輪をもつ拝田 14 号墳（円墳）があり、この地で水の祭祀を司った首長が葬られているのでしょうか。



木樋が２つ見つかった流路跡（西から）

木樋２（東から）

遺物が語る京都の歴史

緑釉陶器（亀岡市篠黒岩１号窯）

奈良時代から平安時代にかけて、日常的に使われた土師器や須恵器とは別に、宮内や貴族の屋敷及び寺院などから出土する高級な焼き物の一つに緑釉陶器があります。

緑釉陶器は、素焼きした土器に無色の鉛が入った釉薬に銅化合物を加えて 800 度ほどの温度で２度焼きした緑色の陶器です。７世紀後半から生産が始まり、都が長岡京、平安京に遷るとその北方の丘陵で生産されます。また、10 世紀になると亀岡市篠窯業生産遺跡群（通称：篠窯跡群）で椀や皿が生産され都や各地の官衙にもたらされます。

発掘調査　よもやまばなし

過去の検出例を調べる

発掘調査では、いろいろな遺構や遺物が見つかります。京都府内の市町村での出土例を把握するために、調査課の壁面に府内の調査報告書を常備しています。

【発行日】令和７年３月
【編集・発行】公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
〒617 - 0002　京都府向日市寺戸町南垣内 40 番の３

HP　X　facebook　instagram

KYOTO ARCHAEOLOGY CENTER
2024
公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

もっと知りたい

京都の遺跡　第 16 号

いのり　まじない　のろい　の考古学

いのり まじない のろい の 考古学

古代人は、現代では解明された気象現象などを不吉なことが起こる前兆と捉え、疫病も怨霊や疫鬼がもたらしたとして恐れました。このような恐怖心を克服するために、人々は鬼の顔を描いた器や、まじないを書いた札などを使って罪やけがれを祓い、また、人形や呪符木簡などを用いて「のろい」を密かに行いました。

現在、災害のメカニズムやさまざまな病気の原因は、研究により究明されつつあります。しかし、日常的に願をかけたり、験を担いだりする人々も多く、「いのり」や「まじない」は、現代社会においても忘れ去られることはありません。

いのり

鬼面土器・土馬・ミニチュア土器

これらは、日本古来の道具ではなく、中国や朝鮮半島に起源をもつ宗教的な道具です。日本の宗教の基層には、意外と大陸の強い影響があったようです。木津川市釜ヶ谷遺跡の川底からまとまって出土しました。

1 釜ヶ谷遺跡出土鬼面土器

鬼面土器

病人が鬼の顔を描いた器に息を吹き入れ、川に流すことによってけがれや病の気を祓いました。その顔は、鬼ではなく鍾馗あるいは疫病神とする意見もあります。

鍾馗：中国の伝承で魔を除くとされる神

土馬

災いをもたらす疫病神を土馬に乗せて、けがれを川に流したとする説や雨ごいのまつりの道具とする説があります。中国起源の殺牛・殺馬の風習は、飛鳥・奈良時代にたびたび禁令が出るほど流行しました。土馬は、いけにえの代わりであったため、身体の一部が意図的に折られて出土します。

2 釜ヶ谷遺跡出土土馬

3 釜ヶ谷遺跡出土ミニチュアかまど

かまど

5世紀末から6世紀初めに大陸から伝わったカマドは、単に、炊飯の技術だけが伝わったのではなく、漢神や韓神と呼ばれるカマドの神も伝わり、その後、ミニチュアのかまどによる宗教的な儀礼が広がりました。

地鎮

地鎮は、土地の神に土地を占有することの許しを請い、土地や建物の安全を祈願するための儀礼です。柱穴に土器を埋納する地鎮は、古墳時代にも見られ、長岡京では道路の交差点に銭貨を入れた木箱を埋めた例があります。

4 森垣外遺跡（精華町）古墳時代の地鎮

5 長岡京跡（長岡京市）道路に埋められた木箱

まじない

「蘇民将来之子孫者」お札

6 長岡京跡（長岡京市）出土
蘇民将来呪符木簡

写真提供：長岡京市教育委員会

日本各地の伝承では、牛頭天王（スサノオ）は、蘇民将来という人への礼として、疫病から身を守る茅ノ輪を授けたとされます。そのため「蘇民将来子孫也」などと書いた札が流行します。写真は長岡京跡右京六条二坊の道路側溝から出土した8世紀後半の最古例です。

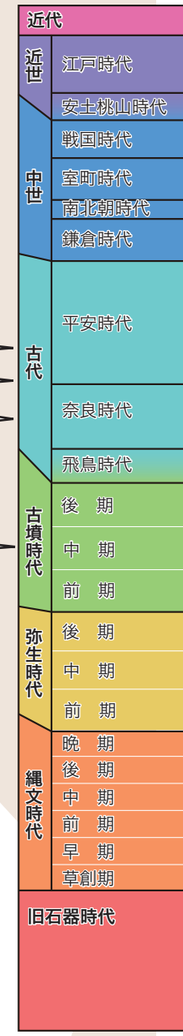
祭祀場を区画する「斎串」

斎串は、祭場の最も神聖な場所や、神を招く招代の周りに突き刺して聖域を区画する祭具です。井戸からの出土は、清浄な水を得られるようにとの願いが込められています。

7 靭尾遺跡（京丹後市）出土
斎串

のろい

「祓い」と「のろい」の人形

ヒノキの薄い板を人形に削り、墨で顔や毛髪、顎鬚などが描かれました。罪や穢れを祓ったり病の治療、呪いの道具として使われました。当時、このような呪術は、「呪詛」として恐れられ、その疑いから失脚した貴族もいました。人形が流行する背景には、中国起源の道教があったようです。

8 中福知遺跡（向日市）出土
人形